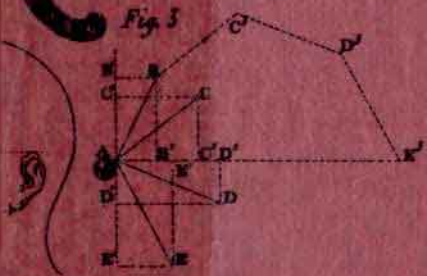
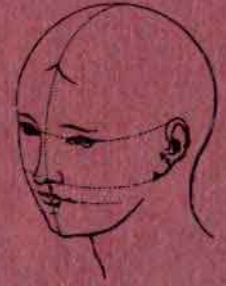
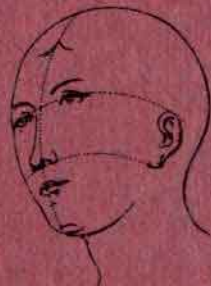
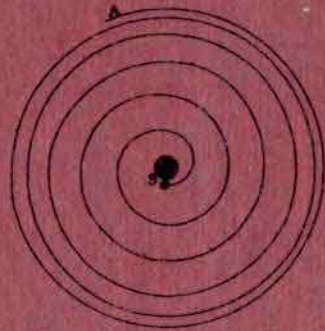
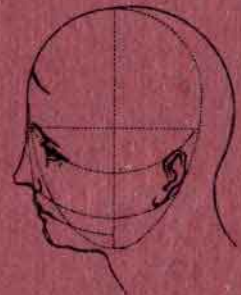
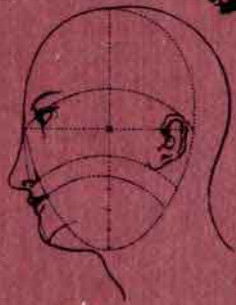
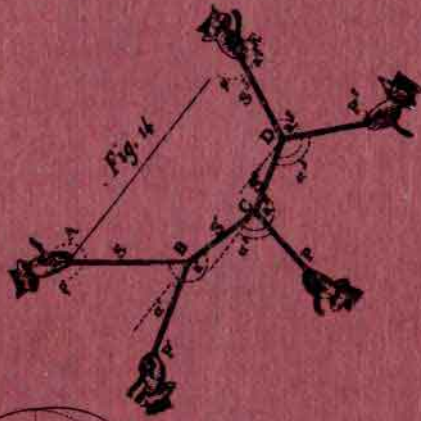
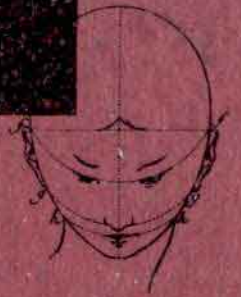
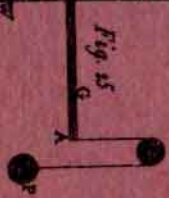
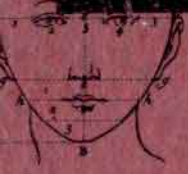


はじめての中国語



はじめての中国語

1990年2月20日第1刷発行

著者——相原 茂

© Shigeru Aihara 1990 Printed in Japan

発行者——野間佐和子 発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目12-21 郵便番号112-01

電話03-945-1111

装幀者——杉浦康平＋谷村彰彦

印刷所——凸版印刷株式会社 製本所——株式会社大進堂

ISBN4-06-148987-9 (定価はカバーに表示してあります)

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、
学芸図書第一出版部あてにお願いいたします。



はじめての中国語

相原 茂

●目次

序 章 学びやすい中国語9

「10秒で100の単語を教えましょう」／「小異を残して大同に就く」日中の数表示／中国語をローマ字で表す？

第1章 私たちが学ぶ中国語17

1 —漢字・漢字・漢字／18

ある日の『人民日報』から／「意外とやっかいだ」——学生の感想／未知のことばは“雑音”？／「音」をつかまえる何かを

2 —中国の文字改革／26

「ピンイン」の制定——どう読みどう書くか／現代中国の正字——簡体字／異体字の整理／漢字の簡略化／漢字簡略化のしくみ

3 —中国語とは何か／35

「中国語」ということばはない／中国の七大方言／全国あまねく通じる「共通語」

第2章 中国語の発音41

1 —声調——中国語のメロディ／42

四つの声調のかたち——四声／声調が違えば別のことば／四声の出し方のコツ

2 —単母音と複母音／45

七つの基本単母音／単母音に四声をつけて練習を／複母音とその発音

3 —音節と鼻音／50

発音の最小単位——音節／-nと-ngを区別する／16の鼻音韻母／ピンインは発音記号ではない

4 —子音——無気音と有気音／57

頭につく子音＝声母は21／子音の発音のコツ／対立する無気音と有気音／もう一つの難物「そり舌音」

5 —音の変化／63

第3声が続く場合／「轻声」はひたすら軽く／発音よければ半ばよし

第3章 日本語と中国語……………67

1 —漢詩一首／68

李白を中国語で読めば／日本語に残る中国の古い音／「何となく」似ている日本音と中国音／“不”と“一”の声調変化

2 —漢文と現代中国語／75

「漢文」は中国人にとっての「古典」／“湯”は「スープ」で“走”は「歩く」!?

3 —日中同形語／78

「若妻」が“老婆”で「亭主」は“丈夫”!?!／日中同形語の3タイプ／中国近代化の手本になった和製漢語／「革命」も「共産主義」も日本産!／外来語の意識は「さすが文字の国」

4 —固有名詞の表記／86

「鈴木さん」のジレンマ／地名は?カタカナ名や平仮名名は?

第4章 中国語の語彙……………91

1 一体系の中の単語／92

“帽子”と“花”のさまざまな意味／中国における“革命”的振舞とは？／“水”は熱い！——ことばは網の目／動作のカタチによって言い分ける「切る」／中国語の〈眼〉でみればトマトは“柿”／日本語にはない世界の切りとり方

2 一字と語／104

“眼”と“目”——単語と形態素の違い／〈字〉は必ずしも〈語〉ならず／2音節で安定する中国語の単語／双声語と疊韻語

3 中国語の外来語／112

外来語の5タイプ／意識と音訳の使い分け／日本企業の必死のネーミング／「エイズ」にどう対処する？／外国の地名・人名を漢字でどう表すか

第5章 私の中国語修業……………123

1 ひとつの研究会／124

机の上の受信機／国交回復前夜に聴いた“^{テー}记录新闻”／不明な単語に甲論乙駁／ウルサ型に学んだ正しい簡体字

2 「注釈」から学ぶ／128

難しい語句につく「注釈」／本文はわかっても注釈がわからない！／反義語を組み合わせる注釈常用語／^{セツト}対感覚で磨かれる中国語／「金銀銅鉄」とかけて「無錫」ととく、ココロは？

／姓当てナゾナゾで知る中国文化／漢字の偏
や旁はどう言うか？／活字が「聞こえる」！

第6章 中国語の基本 I145

1 一文の基本構造／146

基本構文はSVO／人称代名詞と複数形／述
語になる形容詞と「おかざりの“很”」／「be
動詞」は“是”／語順が大事／助詞がない！
動詞の活用がない！！／単語の中にも生きてい
るV＋Oの順序／VO構造の動詞は目的語を
とれない

2 否定文と疑問文／157

“不”と“没有”——二つの否定辞の違い／
中国語でも「パパ」「ママ」／“吗”をつけれ
ば疑問文／行く・行かない？——反復疑問文／
ダレ・ナニ・ドコ・どれ——疑問詞疑問文の作り
方／コレ・ソレ・アレ・どれ——指示詞の言い方

第7章 中国語の基本 II167

1 修飾語の構造／168

修飾語は前に補語うしろ／物を数えるには専
用の量詞を／「の」を表す便利な“的”／“的”
がいる時いらぬ時／複数の修飾語の並べ方／
連用修飾語も用言の前に／前か後か——副詞
と否定辞の順序／“的”は連体“地”は連用
——修飾語の目じるし／中国語の前置詞／前
置詞は動詞の“なれの果て”／前置詞フレー
ズは連用修飾語／まず文の骨組を見抜く

2—補語のいろいろ／185

結果・方向・可能の補語／様態補語——“得”
の役割は「名詞化」／様態補語の否定形は？
／Vが目的語を伴う場合／様態補語は「述語」
格／三つの「de」と「実現の“了”」／少しや
っかいな「少し」の表現

3—存現文の性質／197

“有”と“在”——存在の仕方の違い／存在
の様子を詳しく描くには？／何かが起こる、
何かが消える——現象文／自然現象の表し方

第8章 ひとこと中国語……………207

1—声を出す／208

「こんにちは！ご機嫌いかが？」／再見のヴ
ァリエーション／トイレに行きたくなったら？

2—ホテルで／214

「ホテル探検」で会話の免疫づくり／店員さ
んに呼びかける／買い物をするときは？／テ
ィールームでお茶を

3—街へ出る／223

「新華書店はどこですか」／ハンコを作る／
迷子になっても慌てないために／タクシーで
街を走る／タクシーは降り際が肝心

4—おいしく食べる／234

「この料理はとってもおいしい」／酒やタバ
コを「のめや・すすめや」／五つの味を味わい
分ける／「酒足リテ食飽キタリ」

5 —別れをキメル／239

「一緒に写真を」／「あなたの中国語が上達
れますように！」

あとがき／244

序章

学びやすい中国語



「10秒で100の単語を教えましょう」

日本人にとって、数ある外国語のなかでも中国語ほど入門しやすく親しみのもてる言語はありません。

時は新学期。「さあ、これから中国語を勉強するぞ」とフレッシュな気持ちで第1時間目の授業に集まってきた学生を前にして、私は時々こんなことを言います。

「今日は中国語の最初の授業ですから、文法とか発音とか、難しい話は何もしません。でも、せっかくみなさん出席されたのですから、中国語の単語を100ほど覚えて帰って下さい。これから10秒のうちに、単語を100お教えしましょう」

たった10秒のうちに、単語を100も覚えられるはずがない。学生は半信半疑の眼を向ける。私はやおら黒板に向き、

一 二 三 …… 九十八 九十九 一百

と書く。これで数字の1から100までを表したつもり。

学生はとたんに「なあんだ」という表情をしますが、ちょっと他の外国語の場合を想像してみてください。1から10までだけでも、たとえば英語では、

one two three four …… nine ten

と、そのスペリングを覚えるのは結構大変だったじゃありませんか。ましてフランス語やロシア語となれば、数の表示の仕方はぐっと複雑で、これを1から100まで書き表せ

るようになるには、一苦勞も二苦勞もいるでしょう。

しかも、数というのは年月日の言い方から、時間、お金と、日常生活で頻繁に使うもののだけに、数詞はまぎれもなく最常用語の一つです。

それが中国語なら、1から99までは、漢字表示の仕方は日本とまったく同じなのです。考えてみれば、私たちが用いている数表示の体系は中国から取り入れたわけですから、日中が共通なのは、当然と言えば当然のことなのです。

「小異を残して大同に就く」日中の数表示

ところで、1～99までは同じですが、100はちょっと違うことに気づかれたでしょうか。日本語では「百円」とか「百人」というように単にヒャクと言いますが、中国語では“一”をつけて“一百”、いわばイッピャクとなります。「十、百、千、万」などの位の数字に「一」をつけて言うか否か、日本語と中国語ではズレがあるのです。

〈日本語〉	〈中国語〉
十	(一)十
百	一 百
(一)千	一 千
一 万	一 万

日本語では「一十」とか「一百」とはまず言いません。千の位になってはじめて「一千」と言うことが許され、万

になれば必ず「一万」と言わなければなりません。ところが中国語では「十」からもう“一十”という言い方が存在し、「百」以上は必ず“一”が必要です。

もう一つ違いを挙げましょう。たとえば中国語で、

一百三

と言え、これは103ではなく、130のことです。つまり「一百三 $\times$ 103」!“五百四”なら540、“三千八”なら3800です。ここにはどういう論理が働いているのでしょうか。

実は3400とか130とか、最後が0で終わるまとまった数の場合、最後の位の数を省略できるのです。もちろん千、百、十といった位数をきちんと言ってもかまいません。すなわち、

74000→七万四（千）

5800→五千八（百）

130→一百三（十）

となります。（ ）内の位数は、言っても言わなくともよいのです。それなら5008や103はどう言うのか、気になります。これは0にあたる“零”という語を中に入れてやり、

5008→五千零八

103→一百零三

と言います。ところで、“零” = $0^{\text{ゼロ}}$ と考えると、ここでも

間違えます。5008のようにゼロが二つあっても“五千零八”のごとく“零”は一つで済ませます。つまり、この“零”は「(五千) そして端数が(八)」「(五千) とんで(八)」という用法なのです。ちなみに5080なら「五千零^{とんで}八十」となります。

ともあれ、同じだ同じだと安心していても、軽いうっちゃりを食わせられます。日中の数表示は、いわば「小異を残して大同に就^つく」と言えませんが、ことが数だけに「小異」はどうでもいいやと済ますわけにはいきません。

しかし、これらの違いやズレは、何となく「嬉しくなるようなズレ」ではありませんか。厳として揺^{ゆる}ぎない共通部分があるため、その上に立ったちょっと「余裕のある驚き」と言ってよいでしょう。

中国語をローマ字で表す？

教室でキョトンとしている学生諸君に話を戻しましょう。

「10秒で100の単語を教えましょう」という私の公約は、果たされたことになるのでしょうか。ひと通り説明しても、なんだか腑^ふに落ちない、騙^{だま}されたような顔をしています。

それもそうです。覚えたと言っても、その書き方、文字表記を知っただけなのですから。これでは中国人が1、^{アル}2、^{サン}3……と数を発音しても（麻雀の心得のある方は別として）、何のことやらわかりません。肝心の発音をまだ知

らないのですから。

数に限りません。中国と日本の共通漢字はまだまだ沢山あります。「山」とか「人」「学校」「手」など、日中いずれも、その基本的意味も文字も共通です。英語なら「次の日本語を英語に直しなさい」と言って、

1. 山 2. 人 3. 学校 4. 手

というような出題がありうるでしょう。しかし、中国語のテストではこんな問題は出しません。問いがそのまま答になっているからです。私たち教師は、ですから、次のように出題します。

問＝次の語は中国語でどう言うか、その発音をローマ字で書きなさい。

1. 山 2. 人 3. 学校 4. 手

これなら、上の答は、

1. shān 2. rén 3. xuéxiào 4. shǒu

となり、涙なくして満点というわけにはゆきません。

数についても同様です。さきほどの1～10まで、その発音は次のように示されます。

一 イー yī	二 アル èr	三 サン sān	四 スー sì	五 ウー wǔ
六 リウ liù	七 チー qī	八 パー bā	九 ヂュウ jiǔ	十 シイ shí

さて、このローマ字は何でしょう。また yī とか èr の

ようにローマ字の上についている“- ‘ ˇ ˘”という符号は何なのでしょう。これが、中国語ということばの「音声的側面」を表すために作られた、ローマ字による表示方法です。

話が急に難しくなりました。ここで「中国語の発音とは……」とやったら、もう一つの公約「今日は文法とか発音といった難しい話はしません」に違反してしまいます。

もう少し、そもそも「ことば」とは何なのか。それを中国語に即して考えてみたいと思います。